

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 広島県立賀茂高等学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	1年生1・2組, 5・6組。それぞれ80人
3 展開の形式	(○) 教科で実施 教科名 ( 保健体育 ) ( ) 教科以外で実施 ( )
4 目標 (ねらい)	学校でオリンピック・パラリンピック教育を実施することで、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進し、生徒のスポーツに対する学びを深める。
5 取組内容	<p>&lt;事前&gt;                  授業及び配布資料で講師の紹介をした。</p> <p>&lt;合同授業&gt;                  担当教諭と講師によるチーム・ティーチングで授業を展開した。走る楽しさや喜びを伝えることを中心に据え、ランニングの基本を「姿勢」「腕振」「腿上」ととらえ、ランニングフォームなど基本的な練習をした。授業の最後にリレーをして授業での取組の成果を試した。また、目標を持つことの大切さや、気持ちの大切さを説かれた。</p> <p>オリンピックについては、「する」だけでなく「みる」、「支える」など、様々な参加方法があると伝えられた。</p> <p>&lt;事後&gt;                  アンケートを実施した。後の授業で講師の授業内容の復習をした。実施していないクラスへ授業内容を伝えたり、実践したりした。</p>
6 主な成果	生徒のアンケートから「走ることが楽しいと感じた」、「走り方の基本がよく分かった」や「オリンピックに行きたい」など前向きな回答が多かった。長距離走の大幅なタイム向上は顕著にみられなかったが、走るときの姿勢を意識することで「楽に走れる」と感じた生徒がいた。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	実施時期や講師を本校のカリキュラムに合うように設定した。マラソン大会を約1か月後に控えた時期に設定することで、長距離走に対する意欲を高めるようにした。
8 主な課題等	事前学習が十分に行えなかったことが課題である。授業や配布資料での説明、紹介だけでなく、生徒に講師の実績を調べさせたり、人間性に触れさせたり、通常の授業（今回は長距離走）での疑問点を挙げさせたりしておく、より学習が深まったと考える。

9 来年度以降の 実践予定	講演会よりも授業で直接オリンピックに触れられる方が、生徒にとっては有益だったと感じたことから、来年度も合同授業を考えている。より学びを深くさせるためにも、事前学習の充実を図ったうえで実践したい。
------------------	---